

第1回 関西支部研修会

日時：令和2年11月29日(日)
場所：京都テルサ



上原 久晴 (京都府)



11月29日京都テルサにて第一回関西支部研修会が開催されました。新型コロナウイルス感染予防対策を徹底して行われ、5月より延期されていた講演の開催に際して御尽力いただきました古市先生はじめ各役員の方々に感謝申し上げます。

京都市で歯内療法専門医院 Ryo Dental Clinic を御開業の神戸 良先生を講師にお迎えし、「歯内療法を成功させるための LOGIC」をテーマに講演いただきました。

まず歯内療法の目的の一つである“根尖性歯周炎の予防”として、残せる歯髄は残すことが重要と生活歯髄切断法を解説いただき、“根尖性歯周炎の治療”として、まず病変があり根尖破壊がある再根管治療の非外科での成功率は40%しかないが、現在の外科的歯内療法の成功率は90%なので、トータル94%の成功率が得られるので外科も必要と教えていただきました。

「無菌的処置原則を守らない根管拡大・形成は、単に感染経路を拡大しているに過ぎない」とあらためてラバーダム の 簡便な使い方や、アクセス窩洞形成の重要性として機械的操作を容易にし、器具破折を予防し、手指感覚をよりよくする“ストレートライ

ンアクセス”にもっと時間を割くと、今は拡大形成に Ni-Ti ファイルを使用できるので、より迅速に根管治療を行えると教えていただきました。

また作業長の考え方、Glide path・ルースファイリングの原則や、洗浄・貼薬の方法等、わかりやすく説明していただき、根管充填ではこれまでシーラーが脆いため出来るだけガッタパーチャを多くしたいがための加圧充填が必要だったが、強度があり硬化膨張する MTA 配合の Bioceramic Sealer の登場で出来るだけシーラーを多くする根管充填が変わり、根管形成から根管充填が劇的に変わるだろうと教えていただき、日常臨床で遭遇しない日が無い根管治療に、より迷いなく臨めるようになれる講演でした。

関西支部委員長 古市 嘉秀先生による「インプラントと矯正を用いた QOL の向上～過去から未来、30年の臨床から～」と題して、重度の叢生や開咬・過蓋咬合などで咬合が崩壊している、とても GP では処置できないと思える症例に矯正とインプラントや、様々な外科を駆使して治療されてきた古市先生の、患者の QOL の向上への強い思いをお話いただきました。